

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
大学院部会	○	○	○	○	○					
○今年度の取組状況 1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。 社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図るため、研究指導教員および研究指導補助教員への昇格を積極的に進めた。保健科学研究科では、生命医科関連からの入学に対応すべくカリキュラムを一部増設したが、今年度は内容を充実させるため、担当教員の見直しも行った。これによって、時代のニーズに対応したカリキュラムとなった。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす対策を行った。また、教員が互いに刺激し合い研究力をアップするために、学生・一般市民を対象に教員研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」を開催した。 2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。 研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 20%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 100%、保健科学研究科 博士（前期）課程 150%、保健科学研究科 博士（後期）課程 56%、医療薬学研究科 博士課程は 38%となっている。 社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を継続して行っている。また、修士課程の定員 20 名の見直しも継続課題である。保健科学研究科では、日本生体医工学会関連行事などで社会人への広報活動を行った。医療薬学研究科では、様々な取り組みを行ったが、残念ながら入学者を確保できていない。 3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。 社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉などの現場と連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、院生の研究を介して医療現場の医療の質向上につながっており、良好な連携が図られつつある。医療薬学研究科では、院生の多くは、現場に出向いて実務経験を積んでおり、研究科としても奨励している。 ○来年度の計画案 1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」の開催を継続していく。 2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。医療薬学研究科では、夜間に講義を受講できる体制であることをアピールしていく。 3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。医療薬学研究科では、院生の実務経験の有用性をアピールしていく。										